

第1回学校評議員会でのご意見

令和4年9月22日(水)学校評議員会を開催し、前期学校評価結果についてご意見をいただきました。

【読書活動の充実について】

- ・読書活動の充実について。子供は「読んでいる」と答え、保護者は「読んでいない」と答えています。この現状はいつも変わっていません。
- 児童評価は微増しています。水曜日は日課の変更を行い、下校時刻を早めました。時間があることで児童は読書を行うようになってほしいと思います。10月からは「わたしのほんだな」(町立図書館発行)の全校での活用強化を考えています。子供は読んだ本の感想を簡単に書き、保護者からそれについてコメントをいただくというものです。この活用を進めていく中で、保護者との連携を深めていきたいと考えています。
- ・とてもいい取組だと思います。子供と保護者との関係性を高めることにもつながります。
 - ・借りた本を本当に読んでいるのかが気になる点です。いつも読書についてこの会で話題に出ますが、どうすれば子供たちの興味を高めることができるのでしょうか。読み聞かせなどはいかがでしょう？
 - ・読み聞かせについては、コロナ禍ということもあり、活動がストップしています。子どもが低学年と高学年に二人いますが、下の子どもの方が読書活動に取り組ませやすいです。本人が「楽しい」と思わないと、なかなか本を手取ることは難しいようです。
 - ・低学年の頃から、本に親しむ機会を持つことが大切です。それを継続して働きかけていかなければならないのではないのでしょうか。
 - ・問題点はゲームなのかもしれません。
 - ・子どもにとって字が書けないことは将来大きな弱みになります。小さいころに基礎基本をおさえるためにも読書活動の充実は必要だと考えます。基本的なことを、低学年の頃から「くせ」として身に付けていかなければならないと考えます。本に触れる機会を大切にして、1歩ずつ少しずつ。
 - ・低学年の子は「わたしのほんだな」に取り組んでいます。また、声をかけなくても進んで読書をしています。
- 高学年の子に読書に取り組ませるにはどうすればよいのでしょうか。
- ・なかなか難しいです。ゲームを取り上げる？
 - ・いかにして興味をもたせるかです。興味をもてるジャンルを見つけ出せばいいのですが。
 - ・読書に楽しさを見出すということが大切です。
- 授業に関連する本を教師が提示することも一つの手立てとなります。授業に関連する本を並行読書として読まなければならないようにして、読書のジャンルを「広げ」「深め」ることも有効だと考え実践しています。毎月23日は「いしかわ読書の日」として県が設定していますので、その日に合わせて、30分程度テレビを消して、ゲームもやめて家族で一緒に本を読むということは可能でしょうか。
- ・9割方難しいのではないのでしょうか。
 - ・親が読まないものを子供にさせるのは難しいのではないのでしょうか。
- 家族で図書館には行きますか。
- ・条南小の保護者はよく連れてきていると思います。シグナスの図書館はお子さんも多いです。
- 学校では給食時間に、図書ボランティアさんが録音したものを読み聞かせとして放送しています。
- ・とてもいい取組です。
- 学校では毎週火曜日の朝学習は、全校一斉で朝読書をしています。

- ・読書感想文についても思うことがあります。子供は「あらすじ」を書いて終わるパターンが多く、話の膨らませ方が分からない。保護者が一緒になって考えることで、読書に対する楽しさを感じさせることができるかもしれません。
- 国語科の学習では学年に応じて系統的に読書感想文をどのように書くか授業で学んでいます。例えば、2年生の「どうぶつ園のじゅうい」では、お話を読んで「自分と比べて考える」「自分に置き換えて感想を書く」という授業を行っていますし、3年生では、「主人公の気持ちと読み手の気持ちを比較して感想文を書く」ということを学んでいます。学年ごとに感想文の書き方を国語の物語文の学習で重点的に学んでいます。それも生かして、保護者と感想の交流ができると楽しいと思います。
- ・低学年から積み重ね、積み上げ、中学年や高学年でも継続していくことを大切にしたいです。
- ・家庭では、小さいころから読書習慣をつけていくことを大切にしたいです。
- 夏休みに「南中校区ネットサミット」が行われました。中学校区4校が連携して、ネット問題に取り組んでいく活動を行っています。その中で、スケジュールを自分たちで立てることに決定しました。また、ゲーム時間が学習時間よりも多くならないような取組を中学校の生徒会と小学校3校の児童会が連携して考えています。先生が示すのではなく、自分たちで決めていくことを大切にしています。
- ・このような取り組みを続けていくことが大切です。

【その他のご意見】

- ・家庭学習は厳しい現状で、どうしてもゲーム時間が長くなりがちです。ゲーム時間についても「〇〇を頑張るから△△させてほしい」と自分で考えさせることが必要だと感じています。
- ・自分で決めさせることは非常に良いと思います。
- ゲームの時間が長くなることで、生活リズムに乱れが生まれます。スケジュールを立てることで、生活リズムが崩れないように留意しなければならないと考えます。
- ・学校が楽しいと答えている児童が93%。これが全てではないかと思えます。「楽しい」と思えることが本当に大切だと考えています。
- ・いじめや不登校の現状はどうですか？
- いじめを見逃さずに指導することが大切です。話を聞いて対話して解決していくことが大切だと考えています。現在、本校は不登校が「0」です。
- ・子供にとって、どこかに「逃げ場所」「行き場所」があることが大切だと考えます。条南小学校には学校へ行きたくない子の「居場所」があると聞いています。
- ・話を聞いてくれる場所があることが大切です。その子の考え方をしっかり聴くこと、決して「ノー」と言うてはいけません。「学校へ行け」もダメ。「どうして行きたくないの」と聞くこと。その子の気持ちになって聞くことで悩みを把握すること大切。悩んでいる子の気持ちに寄り添うことを大切にしていかなければならない。
- 学校では、校長室等をその場所としています。学校へまず来るというリズムを大切にしています。
- ・不登校がないのはすごいこと。実際に子供たちの様子、授業が見たいと思います。

本日は貴重なご意見を聞かせていただきありがとうございます。今後の学校運営に生かしてまいります。